

授業科目名	スポーツ法特論(スポーツ法判例研究)	選 択	開講年次	3	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブタイトル	スポーツ法判例検討		担当者	諏訪 伸夫		
講義概要	<p>【概要】本年度は、主にスポーツ事故に関する判例の検討を通して、「スポーツと法律」に関する知識やスポーツ指導上の留意点などについて学ぶ。</p> <p>その際、個人、またはグループごとに「判例」を選択し、それぞれの見解を加えた発表を行い、討議後、「課題レポート」を提出する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>「スポーツと法律」に関する判例の精読・検討を通して、学生アスリート、および将来スポーツ指導者を目指す学生達が知っておくべき法的知識について理解を深める。</p>					
履修条件	現役アスリート、および将来スポーツ指導者、またはスポーツ法関連領域における分野での進路を目指す学生の受講が望ましい。					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>ケーススタディ SPORTS ACCIDENT(改訂第5版)伊藤堯編著、体育施設出版、2007年、3,150円</p> <p>【参考書】</p> <p>スポーツのリスクマネジメント 小笠原正・諏訪伸夫編著、ぎょうせい、2009年、3,000円</p> <p>導入対話によるスポーツ法学 小笠原 正監修、不磨書房、2007年、2,900円</p>					
授業回数	内容					
1	オリエンテーション(スポーツ法判例検討の意義等について)					
2	判例選択、発表内容等決定					
3	スポーツ事故と法律上の責任、					
4	スポーツ事故とスポーツのリスクマネジメント					
5	中学・高校の体育・スポーツ事故(その1)・・・発表・質疑応答・事例検討					
6	中学・高校の体育・スポーツ事故(その2)・・・発表・質疑応答・事例検討					
7	幼児・児童の体育・スポーツ事故(その1)・・・発表・質疑応答・事例検討					
8	幼児・児童の体育・スポーツ事故(その2)・・・発表・質疑応答・事例検討					
9	大学生の体育・スポーツ事故(その1)・・・発表・質疑応答・事例検討					
10	大学生の体育・スポーツ事故(その2)・・・発表・質疑応答・事例検討					
11	民間スポーツクラブにおけるスポーツ事故(その1)・・・発表・質疑応答・事例検討					
12	民間スポーツクラブにおけるスポーツ事故(その2)・・・発表・質疑応答・事例検討					
13	民間スポーツクラブにおけるスポーツ事故(その3)・・・発表・質疑応答・事例検討					
14	諸外国のスポーツ事故(その1)・・・発表・質疑応答・事例検討					
15	諸外国のスポーツ事故(その2)・・・発表・質疑応答・事例検討					
評価方法	授業内小テストや課題に対するレポート、および授業内での発表態度や内容、さらには出席状態などにより総合的に評価する。					
評価基準	上記の各授業内容の概略を理解した者については「C」とし、その背景や原因・理由等も理解した者については「B」、各判例の法的根拠や学説等を理解し、自己の見解を適切に表現できた者については「A」とする。各授業内容の理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。					
その他	受講者の人数制限を行う場合がある。					